

News Letter

Number 20

日本獣医解剖学会報

September 11th, 2002

◎ 獣医学教育の充実は、待ったなし ◎

会長 林 良博

本年8月5日、中央教育審議会は、「大学の質の保証に係る新たなシステムの構築について」の答申をおこなった。何が変わるのかの理解を助けるために、答申の概要には以下のような例示が添付された。

「経済学部の中に経済学科と経営学科があり、経営学科を改組して経営学部を新設する場合は届出だけで済む。これは「現在授与している学位の種類・分野を変更しない範囲内で組織改編する場合は、学部等大学の基本単位の設置であっても国の認可は不要とし、届出で足りる」ことになったためである。すなわち本答申は、各大学の評議会が認めただけで、獣医学科が農学部から分離独立して獣医学部に昇格できることを保証したといえる。

昨年10月、わたしが会長を務めていた全国農学系学部長会議は、「獣医学教育の充実のために72名の教員体制を展望するが、早期実現を目指すために、とりあえずの移行措置として54名体制を認めるものとする」旨の獣医学教育改善に関する臨時委員会報告を「全会一致」で採択した。

それから、もう1年になろうとしている。わたしは現在、同会議の監事を務めており、同会議が自ら定めたことを誠実に実行しているか否かを監査する立場にある。「やれないことは言わない。言ったことはやる」を信条にしているわたしとしては、獣医学教育関係者が固執した「72名」規模に対し、当面の最低目標を「54名」に設定することによって全会一致を図った天下の農学系学部長会議が、その約束を守れないようでは世間から物笑いの種になるのではないかと危惧している。本年10月に山形で開催される同会議において、厳しく追及しようと思う。

一方でわたしは、これまでの獣医学教育改善活動において、「多少の嘘があった」のではないかと危惧している。嘘の第一は、世界の先進国の獣医学教育が必ずしもヨーロッパの多くや北米のような体制ではないにもかかわらず、あたかも全ての獣医学教育がそうであるかのように宣伝しすぎたのではないか。また卒業生の8割以上が臨床家になる国と日本・韓国のように5割以下の国では、当然のことながら「臨床教育」に対する取り組みが異なるのではないか。日本の獣医学教育改革において今、臨床教育の充実が最重要課題であることは疑いの余地がないが、欧米を100%真似ることは過半数の学生に対して不利益を招くという疑義を生じさせる恐れがある。むしろニュージーランドのマッセー大学やオーストラリアのクィーンズランド大学のように、教育と研究の調和を図りながら発展するために「獣医学、畜産学、バイオメディカル科学」を統合するという体制も検討の余地があるのではないか。良いことを推進しようとしているのだから「多少の誇張は許される」というのは、推進する立場の論理であり、長期的にみると益は少ない。

ところで獣医学教育体制の再編統合を妨げる要因として、従来から指摘されてきたのは「重大な決定を避けて、曖昧なまま放置するという国立大学の体質」であった。しかし平成16年度から国立大学が法人化され、曲がりなりにも大学の自律的機能が強化され、経営的感覚で改革が行なうことが可能になる。そこで問題になるのは、どの大学も「人気のある獣医学科を手放したくない」という経営感覚からみた再編統合への抵抗である。この抵抗を退けるには、移行過程として「最低54名体制」を、また到達目標として「最低72名体制」を、何年かけてどのように進めるのかの計画を義務付けることが必要ではないかとわたしは思う。

国立大学の再編統合が実際に動き出すと、問題になるのは私立大学の教育体制である。獣医学教育の質の向上にとって必要なことは、一つは教育単位の教員絶対数を増やすと同時に、学生と教員の比率の向上することである。公的支援が10%に満たない私立大学において大幅な教員増または大幅な学生減を図ることは、経営的に極めて困難なことであるが、私立大学の獣医学教育体制が充実しない限り、日本の獣医学教育全体の

向上は望めない。

おそらく獣医学は以下のように活動すべきではないかとわたしは思う。すなわち、適切な範囲を見定めて私立大学の授業料を値上げし、最低限必要な教員の増員を図ると同時に、世界の獣医学の実情を明示して「公的支援を得る」ことである。獣医学の公的支援が10%に満たない大学は、少なくともわたしの知る限り、欧米先進国はもちろんのこと、開発途上国にもほとんど存在しない。極めて稀で不自然な存在を放置しないように訴えることには、理がある。

獣医解剖学は、獣医学の多くの分野の中でも、とりわけ教育に熱心な分野であると外部からみなされてきたし、自らもそのように自負している。したがって獣医学教育改革に対しても、それなりに熱意をもって取り組んできた。しかし、国公立大学に引き続いて私立大学の獣医学教育の充実を目指すために、息切れしないことが最も大切なことなのかもしれない。会員のこの分野におけるご健闘も期待したい。

(平成14年9月9日記)

◇ 第134回 日本獣医学会 ◇

(2002年9月19日～21日) 会場: 岐阜大学キャンパス

(解剖に関連するものを抜粋して掲載します)

ワークショップ21(WS21)
(日本獣医解剖学会シンポジウム)

9月21日(土) 10:30～12:30 第VII会場

鳥類の神経科学

- コーディネーター: 内藤 順平 (名古屋大学)、阿閉 泰郎 (岐阜大学)
- WS-100 上原 正人 ニワトリ脊髄小脳路の神経解剖学的特徴
- WS-101 内藤 順平 鳥類の優れた視覚機能を支える神経機構は?
- WS-102 阿閉 泰郎 線維連絡による鳩海馬の同定およびその特徴
- WS-103 中原 桂子 鳥類松果体によるメラトニン分泌リズムと生体リズムの制御
- WS-104 吉村 崇 鳥類概日時計の分子機構と時計に支配される現象の制御機構

<第12回 獣医解剖サテライトフォーラム>

9月19日(木) 16:45-17:45 共通教育棟 104講義室

脳神経回路の形成および損傷修復と脳特異プロテオグリカン

講演者: 大平 敦彦 (愛知県心身障害者コロニー)

コーディネーター: 阿閉 泰郎 (岐阜大学)

ポスターセッション1 (解剖関係)

第II会場 9月19日(木) 8:30～10:30

- PS-001: 花木 賢一 (農工大・微生物): 半導体ナノ粒子を用いた蛍光抗体法の開発
- PS-002: 佐々木 基樹 (帯広大): ジャイアントバンダ (*Ailuropoda melanoleuca*) およびマレーグマ (*Helarctos malayanus*) 足根関節の樹上性適応
- PS-003: 福田 勝洋 (名大): ジャワマメジカの大動脈弓の分岐について
- PS-004: 柏木 龍 (農工大): ワルファリン耐性クマネズミの核型分

析と、サテライトDNAおよびrDNAのマッピング

PS-005: 宇野 美鈴 (農工大): デマレルーセットオオコウモリの核型解析とrRNA遺伝子座の同定

PS-006: 石黒 直隆 (帝広大・公衆衛生): Ancient DNA手法を用いた絶滅動物・ニホンオオカミの遠传的復元と分子進化的特徴

PS-007: 渡辺 敬文 (酪農大): ウマの浅指屈腱筋におけるゴルジ腱紡錘について

PS-008: 山本 悦子 (酪農大): ウマ浅指屈腱炎に対するβ-aminopropionitrile (BAPN)治療効果

PS-009: 保坂 善真 (酪農大): 腱における炎症性サイトカインとアポトーシス関連シグナル伝達因子の発現

PS-010: 伊豆 弥生 (日獣大): クロミンクジラ (*Balaenoptera bonaerensis*) の前腕骨における骨形成過程に関する研究

PS-011: 魚住 賢司 (北里大): ネコ舌の筋組織と結合組織の構築に関する形態学的研究

PS-012: 松元 光春 (鹿大): ラット肺のPSPの精製と発現動態

PS-013: 寺田 成一郎 (府大): 鶏マレック病性悪性リンパ腫の肺転移における細胞接着因子ギセリンの関与

PS-014: 横山 俊史 (神戸大): ラット骨髄における赤芽球の成熟と赤芽球小島の移動

PS-015: 山田 (山口) 美鈴 (京大): 遺伝性腎疾患モデルマウスにおける腎性貧血症機序の解明

PS-016: 矢吹 映 (鹿大): DBA/2Crマウス腎臓の近位尿管上皮に特徴的な巨大リソゾームの発達におよぼす性ホルモンの影響

PS-017: 村田 奈々恵 (鹿大): ラット腎臓の組織構造における雌雄および系統の特性

PS-018: 高畑 薫 (麻布大): 胎生期ラット正中膀胱間膜の形成について

PS-019: 幡田 功 (日大): シバヤギの下顎腺におけるシアロ糖タンパク質の局在

PS-020: 鐸田 仁人 (神戸大): ウシ血清アルブミン経口感作ラットの消化器系における特異抗体の分泌

PS-021: 藤本 和歌子 (北大): ニワトリおよびカエルの消化器におけるキチン分解酵素の組織発現

PS-022: 北川 浩 (神戸大): ラット小腸におけるアポトーシス発現絨毛円柱上皮細胞による食餌性抗原および特異抗体の吸収

PS-023: 竹内 崇師 (島根医大・実験動物): ウサギ小腸絨毛円柱上皮細胞とM細胞の細胞動態

PS-024: 大西 佐知子 (神戸大): ラットの腸バリエル板濾胞被蓋上皮における食餌性抗原および特異抗体の吸収

PS-025: 陳 慶義 (神戸大): ラット小腸バリエル板におけるM細胞と常在細菌との関係

PS-026: 保田 昌宏 (宮崎大): 牛の空腸および回腸バリエル板の形態と機能IIリンパ濾胞内T細胞の出現時期

PS-027: 小川 美希 (酪農大): 血清中ビタミンA濃度と肝臓星細胞の形態的変化について

PS-028: 山田 恵理子 (酪農大・生化学): ラット慢性肝障害・発癌モデルにおける食細胞活性の低下〜ラット-2-AAFモデルによる検討-2〜

PS-029: 山本 雅子 (麻布大): 出生前のPCBs投与が雄ラット下垂体および影響

PS-030: ドウイクスマ・サリ (府大): Effect of inhalation of low concentrated formaldehyde during 3 months on the hypothalamo-pituitary-adrenal gland axis in mice

PS-031: アミン・ハッサニン (府大): Study of LH- immunoreactive cells in the pituitary of the common carp (*Cyprinus carpio*) from control pond and rivers contaminated by estrogenic chemicals during annual reproductive cycle

PS-032: 田中 愷 (長寿研): C57BL/6Jマウスの副腎皮質

投与の影響

PS-183: 星 信彦 (北里大): GnRH遺伝子欠損雄マウスにおけるアクチビンおよびPMSCの生殖系への作用

PS-184: クルザナ・マリアベリャ C. (帝広大): 水牛 (*Bubalus bubalis*) の精巣におけるcytP450sccおよびアンドロゲン受容体の局在

PS-185: 佐藤 剛 (東大): マウス生殖腺におけるFamの標的蛋白Af6の発現パターンの解析

PS-186: Andriana Bibin Bintang (東大): Postnatal Development of Multivesicular Nuclear Body in the Shiba Goat Sertoli Cell

PS-187: 村上 恵理 (麻布大): ラット胎子精巣導帯におけるアポトーシス細胞の消長

PS-188: 坂入 旭 (日大): ミニブタの精囊腺上皮における糖質の組織細胞化学的研究

PS-189: 岡本 一剛 (北里大): Diethylstilbestrol子宮内曝露による次世代雄マウスの生殖障害に関する形態学的研究

PS-190: 古家 優 (府大): 高濃度のビスフェノールAが雄鶏に与える影響

PS-191: 眞鍋 昇 (京大): ブタ卵胞の顆粒層細胞における細胞死リガンドと受容体を介したアポトーシスの制御機構

PS-192: ブディビトジョ・テグ (帝広大): 非妊娠および妊娠のウシ子宮におけるガストリン放出ペプチド (GRP) mRNAの発現

PS-193: 太田 康彦 (鳥取大・実験動物): ラット子宮間膜腺形成におけるエストロゲンの役割

PS-194: 青木 恵美子 (麻布大): ラット胎子子宮広間膜の形成とアポトーシス

PS-195: 境内 貴志 (府大): 犬の乳腺腫瘍における細胞接着因子ギセリンの発現

PS-196: 杉浦 方亮 (府大・放射線): イヌ乳腺腫瘍におけるBRCA1mRNAの発現の検討

PS-197: 野地 智法 (東北大): ウシ乳腺組織でのIL-18の発現

PS-198: 門脇 理良 (北里大): ラットの乳腺退縮時における筋上皮細胞の機能に関する形態学的研究

PS-199: バイイン・ジャラガラ (鹿大): 未成熟マウスの乳腺実質に及ぼす漢方薬の影響

PS-200: 谷澤 魅帆子 (名大): 周期的脱毛を示すミュータントハタネズミ移植皮膚片での発毛状況

PS-201: 竹花 一成 (酪農大): 新生イヌと成イヌの角膜混濁の相違性

PS-202: 村賀 裕史 (宇大): カラスと他種の鳥類における脳の比較計測

PS-203: 齋藤正一郎 (愛媛大・医): ラット一次嗅覚系における神経栄養因子プロサボシンのmRNAの局在について

PS-204: 添田 聡 (日獣大): ニホンイモリ<I>Cynops pyrrhogaster</I>の変態過程における嗅覚系の形態の変化に関する研究

PS-205: 神谷 新司 (日獣大): 動物のポリグルコサン小体におけるネスチンの発現について

PS-206: 塚原 伸治 (神戸大): ラット中脳中心灰白質へ投射する中隔外側核神経細胞数に対する新生期エストロゲンの効果

PS-207: 五十嵐 史織 (麻布大): 胎生期におけるPCB126およびPCB169曝露が生後の脳に及ぼす影響

PS-208: 齋藤 恭子 (愛媛大・医): ラット嗅球の生後発生における神経栄養因子プロサボシンの組織化学的局在

PS-209: 山本欣郎 (岩大): ラット頸動脈小体におけるTASK-1, TASK-2, TASK-3およびTRAAKの局在

PS-210: 尼崎 肇 (日獣大): マウス有顆乳頭の味蕾細胞の生後変化

PS-211: 陳耀 星 (帝京科学大): ニワトリの網膜節細胞のタイプと内網状層における層分岐の発生学的研究

PS-212: 長竿 淳 (北里大): ストレプトゾトシン投与ラットの膵島および介在導管上皮細胞におけるネスチンの発現

ポスターセッション 8(解剖関係)

第II会場 9月20日(金) 8:30~10:30

PS-181: 保坂 貴美子 (麻布大): 体副腎除去が胎子精巣の発達へ及ぼす影響

PS-182: 久松 和加 (麻布大): ラットの膵臓β細胞分泌に対する酢酸

獣医解剖学会関係者が関与されている関連行事

ワークショップ 16(WS16)

【妊娠の成立機構とその制御】

9月19日(木)14:30~16:30 第IX会場

- WS-074 原鐵晃 ヒトの妊娠成立に関するアポトーシス関連遺伝子と細胞外基質改変因子の発現解析および子宮内移植可能なTS細胞 (Trophoblast Stem Cell)の3次元培養体の確立
- WS-075 橋爪一善 ウシの子宮内膜機能と着床について
- WS-076 田中智 TS細胞を利用したマウス胎盤形成制御機構の解析
- WS-077 木曾康郎 母子境界領域における子宮NK細胞の機能

動物の神経科学を語る会

9月19日(木)18:30-20:30 農学部11講義室

ワークショップ22(WS22)

【アポトーシスの調節：アポトーシス発現とシグナル伝達】

9月21日(土)10:30~12:30 第VIII会場

- WS-105 松尾三郎 アポトーシスの調節：アポトーシス発現とシグナル伝達
- WS-106 北川浩 腸上皮のアポトーシスと生理的機能
- WS-107 片山圭一 胎仔中枢神経毒性の発現機構：神経幹細胞のアポトーシスと細胞周期停止
- WS-108 桑原幹典 酸化ストレスに対する細胞内分子応答とアポトーシス
- WS-109 前田定秋 Peroxynitriteによる神経細胞のアポトーシス誘導と接着斑蛋白Casのチロシンニトロ化
- WS-110 清宮健一 アポトーシスにおけるプロテアソームの役割
- WS-111 中川博史 細胞内輸送阻害によるアポトーシスと自己食細胞性細胞死

シンポジウム

「獣医学教育における動物利用のあり方」

獣医倫理の観点から〜

9月20日(金)14:30-17:30 第V会場

講演者：竹内 啓（日本大学）、林 良博（東京大学）、池本卯典（日本獣医畜産大学）、杉山 誠（岐阜大学）、伊藤茂男（北海道大学）、若尾義人（麻布大学）

コーディネーター：前島一淑（慶応義塾大学）、鈴木義孝（岐阜大学）

*****日本獣医解剖学会関連集会*****

【日本獣医解剖学会理事会】

9月19日(木) 12:00-13:00 農学部1-A会議室

理事の先生方のご出席をお願いします。総会の議題について事前協議などを行います。

【日本獣医解剖学会総会】<時間厳守で御参集を！>

9月19日(木) 17:45-18:15 共通教育棟 104講義室

議題(予定)

- ・獣医解剖学教育改善プロジェクトについて (イヌの肉眼解剖学教科書作成の件も含む。)
- ・奨励賞表彰について
- ・来春の獣医学会開催案内(九郎丸)
- ・その他

【日本獣医解剖学会懇親会】

日時：平成9月19日(木) 18:00-19:30

場所：学内の生協喫茶室

会費：立食形式 会費3,000円。

ぜひ参加して懇親を深めましょう。

まだ間に合います。参加ご希望の方は至急(9月17日午前中までに)、幹事校の阿閉先生(058-293-2936; e-mail: atoji@cc.gifu-u.ac.jp)へ連絡ください。

世話人：岐阜大学 獣医解剖学教室 阿閉 泰郎 先生

◎ 日本獣医解剖学会奨励賞第8号 ◎

専修大学で日本獣医畜産大学の主催で平成14年3月に開催されました第133回日本獣医学会での発表演題に対して3名の選考委員会で慎重に審査の結果、下記のとおり決定されました。

受賞者：野地 智法。(東北大学大学院農学研究科)

受賞対象演題：LPS刺激によるウシ乳腺上皮細胞でのInterleukin-8 mRNA発現誘導

なお、本賞は9月19日の獣医解剖学会懇親会の席で授与の予定です。

野地さん、おめでとうございます！ 今後のご発展をお祈りします。

<<<<<<<<. 会 員 情 報 .>>>>>>>>>>>>>>>>

学位取得者紹介

- ◆ 北里大学の星 信彦先生は、北海道大学から博士(医学)を授与。論文題目：Maternal serum markers in pregnancies associated with fetal trisomy 21 of native Japanese women with or without fetal morphological abnormalities
- ◆ 会員ではありませんが北海道大学大学院獣医学研究科野生動物学講座から平成14年3月に以下のような学位論文が認定されましたので、参考までお知らせします。

石名坂 豪：北海道沿岸地域に来遊するトド、ゴマフアザラシおよびクラカケアザラシの繁殖生理学的特性ならびに繁殖学的パラメータに関する研究。

マハムト ハリク：Studies in Genetic and Morphological Characteristics and Conservation of the Red Deer (*Cervus elaphus*) in Xinjiang, China.

水野 文字：Studies on Population Ecology of the Spotted Seal, *Phoca largha*, in the Coastal waters of Hokkaido, Japan.

人物往来

- ☆ 山口大学・本道栄一助教授は8月1日から米国へ留学中です。留学先は Cancer and Developmental Biology Laboratory NCI Frederick Vancer Research and Development Center, P.O. Box B, Building 539, Room 121A, Frederick, MD 21702-1201, USA
- ☆ 鹿児島大学生命科学資源開発研究センター実験動物研究部門 鈴木秀作先生は8月16日付で教授に昇任されました。
- ☆ 鹿児島大学家畜解剖学教室に留学されておりますバイイン・ジャラガラ(中国政府派遣研究員)は9月24に帰国予定なので大学の住所をお知らせします。内蒙古農業大学獣医学部 010018 内蒙古呼和浩特市内昭烏達路306 +86-471-4309281
- ☆ 遠藤秀紀会員(国立科学博物館)は文科省在外研究員として、3月からスミソニアン研究所・自然誌博物館に出張されて居りましたが、8月末に無事帰国されました。
- ☆ 名古屋大学で学位を取得され、中国農業大学動物医学院家畜解剖学教研組の陳耀星、海外会員は、この度、内藤順平教授が所属されている帝京科学大学に客員教授として滞在されています。
- ☆ 北海道大学の築瀬晴子学生会員は9月よりネバダ州立大学医学部生理学講座に留学(ポスドク)されます。研究テーマは消化生理です。
- ☆ 岩手大学の加納 聖先生は東京大学大学院農学生命科学研究科応用遺伝学講座に転勤されました。また10月1日から2年間の予定で米国へ留学されます。留学先：The Jackson Laboratory (2002.10.1~2004.9.30) 住所：600 Main Street, Bar Harbor, Maine 04609 USA 電話：207-288-6000

◇ 第135回 日本獣医学会のご案内 ◇

東京大学 九郎丸 正道、林 良博

来春の獣医学会は平成15年3月30日(日)~4月2日(水)に東京大学の当番で行われますので、皆様ふるってご参加ください。詳細は日本獣医学会のホームページをご参照下さい。

なお、第136回は北里大学の主催で青森市において平成15年10月3日~5日に行われる予定です。

◇ 平成14年度名簿の発行について◇

学会会員名簿を2年ぶりに改定いたしました。会員の皆様にお送りいたしますが、もし届かない事がありましたら帯広畜産大学 山田 純三 (Fax. 0155-49-5354, e-mail: jyamada@obihiro.ac.jp) までご連絡ください。また記載内容の間違いなどありましたら、同様にご連絡ください。

編集者のミスで名誉会員の山下忠幸先生、および学生会員の飯沼康子さんの2名の記載が欠落して居りました。ここにお詫びして名簿にご追加をお願いします。

☆山下忠幸 080-0838 帯広市大空町4丁目11番地13 0155-48-3261

☆北海道大学大学院獣医学研究科生態学教室

飯沼康子 博士3年

001-0019 札幌市北区北19条西6丁目20-80 シャルムあをき北 306号

e-mail: yinuma@vetmed.hokudai.ac.jp Tel. 011-716-5017

皆様のご協力のおかげでNews Letter No. 20号をお届けできますことに御礼を申し上げます。林会長からいつも時を得た論評をいただき感謝いたします。

牧田先生が始められた News Letter の編集を継承し、本号で20号にしました。皆さん、このニュースレターについてどのようにお考えですか？作る側としましては、結構な時間を潰す必要があるのです。退官でもしたらボランティアでやってやろう、という先生はおられませんか？

獣医学教育の改善のための獣医学科の再編・統合は、大学法人化の大波に巻き込まれ、進展が無いようですね。これから数年後の大学はどうなるのだろうかと地方の弱小大学にいます編集者は不安でなりません。若い先生方は私以上に不安でしょうね。私どもの大学では教育経費も予算要求するようになりました。若い先生方と相談し、少しでもまじな教育・実習をするためにはこれだけの経費がかかりますと、しっかり予算要求をさせてもらいましたが、どれだけの経費が来るか不明です。私たちが要求しなければ誰も代弁してはくれません。皆さん、しっかり我々の教育改善を主張しましょう。

会員の皆様のご健勝とご発展を祈ります。(平成14年9月10日記)



学窓社 新刊案内

株式会社 学窓社 〒113-0024 東京都文京区西片 2-16-28
TEL 03-3818-8701, FAX 03-3818-8704, <http://www.gakusosha.co.jp/>

「犬の解剖アトラス」Anatomy of the Dog K.-D. Budras 著

日本語版 (第2版) B4変型判 上製本、カラーイラスト多数、218頁、
林良博・橋本善春 監修 定価 21,000円
イヌの臨床家、解剖学を学ぶ学生および教育者必帯のアトラス。

「獣医組織学」

第2版 A4変型判/328頁/

総カラー、写真図表多数、日本獣医解剖学会編、定価
9,975円(本体9,500円+税)送料450円

「犬と猫の臨床免疫学」

B5変型判/原書288頁/総カラー、写真506点、図
表106点/辻本元・大野耕一 監修 定価15,750円
(本体15,000円+税)送料450円

「犬と猫の救急処置マニュアル」

A4判/389頁/カラー写真158点/中間 實徳 監訳 定
価18,900円(本体18,000円+税)送料520円

「獣医看護事典」

A5変型判/306頁、日本動物看護学会編、今道友則・
牧田登之 監修、定価5250円(本体5,000円+税)
送料310円

「獣医5分間コンサルト

- 犬と猫の診療のために -」

A4変型判/1320頁 /CD-ROM付、長谷川篤彦 監修、
定価47,250円(本体45,000円+税)送料660円

「ウサギの内科と外科マニュアル」

A4判 並製本/160頁/総カラー/斉藤久美子 訳
定価9,975円(本体9,500円+税)、送料380円

「獣医病理学実習提要」

A4判/68頁、日本獣医病理学会編、定価2,625円(本
体2,500円+税)送料240円

「小動物の臨床栄養学」

A4変型判/1386頁/写真図表多数、本好茂一 監修、
発行所：日本ヒルズ・コルゲート(株)内、マーク・モー
リス研究所、日本連絡事務所。販売は(株)学窓社にても
受付中。定価26,250円(本体25,000円+税)送料660
円

「獣医臨床シリーズ 2001年版 29-3 新しい麻酔薬・麻酔法・麻酔関連薬」

B5判/176頁/写真16点・図表23点、Nora S. Matthews
編、小久江栄一・下田実 監訳、定価12,600円(本体
12,000円+税)送料380円

ご注文はファックスまたはホームページからどうぞ!